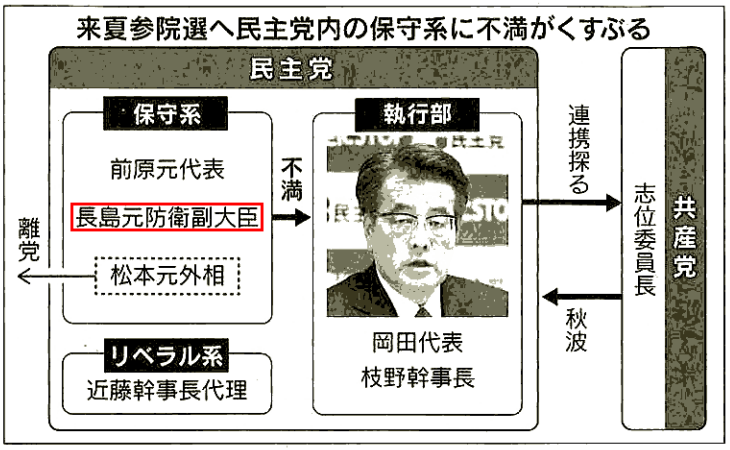
# 民主、路線対立が再燃

## 共産との共闘探る

## 執行部　保守系

## 「安保法廣止」に反発




野党共闘のあり方をめぐり、民主党内の路線抗争が激しくなっている。来年夏の参院選で共産党との連携を探る岡田克也代表らに保守系議員が反発。9月に成立した安全保障関連法への対応をめぐっても、廃止法案を提出するかどうかで対立する。執行部は10日、反党行為ではないとして松本剛明元外相の離党を了承したが、保守系の動向に懸念を強めている。

10日の常任幹事会。「共産党との協力をどうするか、説明してほしい」。参院選での共産党との選挙協力についてある幹部が岡田代表に問いただした。岡田氏は「連合政府が前提では無理だと共産党に伝えた」と共産党との連立政権樹立は否定しながらも「積極的な応援は難しくても（共産党が）候補者を出さないという協力もある」と理解を求めた。

岡田氏ら執行部は参院選で1人区の候補者調整など共産党と協力を慎重に探る。岡田氏は安保関連法の一部を廃止する法案を共産党を含む野党と共同提出したい考えだ。

後押しするのはリベラル系だ。民主党や社民党の護憲派議員でつくる「立憲フォーラム」は11日、代表の近藤昭一民主党幹事長代理ら所属議員が枝野幸男幹事長と会談し、安保法の廃止や参院選の勝利に向けて共産党を含む幅広い野党勢力による共闘を申し入れる。

民主党は安保法への国会対応をめぐっても、対案を出すかどうかで意見が割れた。採決では反対で足並みをそろえたが、共産党が安保法廃止などを媒介に野党共闘の秋波を送ってきたために、再び共闘のあり方が火種になってきた。

執行部の安保法を巡る対応を保守系議員は警戒する。5日夜、細野豪志政調会長は考えの近い前原誠司元代表、長島昭久元防衛副大臣と都内のバーに集まり「党の政策を現実路線に持っていきたいが、なかなか難しい」と心情を語った。細野氏は10日の記者会見で、安保関連法の廃止だけでなく、民主党独自の対案も合わせて検討すべきだとの考えを示した。

共産党との全面的な協力には保守系の反発が根強く、執行部はどんな連携ができるか苦心する。

保守系議員には、新党結成の案も浮かぶが、松本氏に同調して離党する動きは今のところ見られず、展望が開けているわけではない。執行部も保守系も明確な戦略を描けないまま、民主党は揺れている。